

チャオ・ベトナム

J A P A V I E T N A M 会 報

NO.51

発行者：ジャパ・ベトナム事務局 発行日：2016 年 6 月 11 日

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------|
| ◆Cao Bang: Le 先生の思い出 1 / 2 | ◆ベトナムの象の話 6 |
| ◆すべては神の恵み 3 / 4 | ◆寄付者一覧、お知らせ 7 |
| ◆支援先の横顔 2015 年訪問写真から . . 4 | ◆会計報告 8 |
| ◆恩人のみなさまへ 5 | |

CAO BANG: Le 先生の思い出

安藤 勇



ベトナムのホー・チ・ミン市で行われていた東アジア移民労働者ネットワーク会議が終わり、4 月 23 日の午前ハノイに向かった。Noi Bai 空港で、いつもジャパ・ベトナムツアーのグループを世話してくれる Thang 運転手が迎えに来ていたことに驚き、一安心だった。到着して間もなく、ハノイ住まいのクックさんから電話がかかり、自分の車で案内

する予定が、突然運転手の家族に不幸が起こり、Thang さんに頼んだと教えてくれた。翌日、24日の早朝、Thang さんは車でホテルに迎えに来て、クックさんを自宅で拾い、Cao Bang への長い旅を始めた。今度の旅は私には特別な意味があった。過去に20回以上同じ道を走ったことがあるのに、今回は気分的にも違う。ベトナム語が通じな



い私の初めての一人旅だが、クックさんのおかげで一安心だったし、目的もはっきりとしていた。1991 年、全く何も知らない Cao Bang の土地で、Cao Bang 省総合病院の院長だった Le 先生に出会いジャパ・ベトナムの活動が始まった。そこはジャパ・ベトナムの原点ともいえる。当時、一年早く Cao Bang を訪れていたジャパ・ベトナムの先駆者アキミさんがここを紹介した。しばらくたってから彼女は若いうちにがんで倒れた。

2 年前、ジャパ・ベトナムのグループは Cao Bang を訪問したとき、Le 先生にあいさつに伺い、自宅の前でお別れの写真を一緒に獲ったことがあった。実は、Le 先生が、昨年、亡くなられた報告を受けた時から現地に行く機会を探していた。今回の一人旅の目的はお墓参りだった。ジャパ・ベトナムのメンバーを代表して、Le 先生の家族、特に奥さんに、直接、お悔みを伝えたかった。

Le 先生の生家

Le 先生が生まれた場所は Cao Bang 市から 10km ぐらい離れた農村にある。先生が重病になってそこへ引っ越しして暮らしていたと聞いた。80 年ぐらい前に建てられた立派な家の裏に

Le 家の壮大な墓がある。Le 先生の息子さんである Thai 先生の案内で、総合病院の Tuyen さん、Loi さんなどの 6 人と一緒に車で墓参りに、野生の丘を登った。開かれたところに墓が並んでいて、その横に Le 先生の遺体が土中に埋められていたままだった。向こうの習慣では 3 年間そのままにして、そのあときれいな墓を造り遺骨を引越して納骨する。葬儀の時に使った花が枯れたままに、まだ土の上に散らばっていた。わたしたちは持っていた花を墓の上に置き、日本から持っていた線香をつけて焚いた。彼らの「信仰」や行動に興味があった。そして、祈っているうちに Tuyen さんの声が聞こえた。彼女は Le 先生の名前を挙げて、ジャパ・ベトナムの代表として安藤が日本からお墓参りに来たという報告だった。

しばらくして Cao Bang 市に戻り、自宅で待っていた奥さんと親せきに会い、亡くなった Le 先生の写真が飾ってあった祭壇に奥さんと一緒に線香を焚いた。

どこに行っても、必ず「感動的」だという声が聞こえてきた。Le 先生、安らかに！



すべては神の恵み

グエン・ティ・ヴィン Nguyen Thi Vin

(原文ベトナム語を翻訳)

ある日の午後、一人の女性から必死の思いの様子で、私に家にまで来てくれないかと電話があった。今、家族は非常に立て込んでいてどうしていいかわからない状態なので私が彼女の家に行けば何かしてもらえと思ったらしい。

翌朝、私は Nhom Tieng Vong の若いスタッフと一緒にその困難に見舞われている人に会うために言われた住所まで出向いた。私たちのために戸を開けてくれたのは多分50過ぎの二人の女性だった。彼女たちは、私たちとひそひそと小さな声で話し、まるで近所の人に知られるのを恐れているようだった。私は家の中にまっすぐ入って戸を閉めて彼女たちを安心させた。二人の女性は私たちを憂いと悲しみに満ちた様子で2階へ案内してくれた。そして、病人は彼女たちの弟であること、病気末期にある病人をととても愛しているのので入院もさせたが家に帰されたことなどを涙ながらに話してくれた。

病人はHIVに感染したことを知って以来、誰とも接触することを望まず、何も飲食しなくなった。家族はみんな途方に暮れ、泣き崩れ心乱れて方々へ祈願に行った・・・二人の話を聞き彼女たちの気持ちを聞いた後、私は病人に会いたいと頼んだ。彼女たちは私たちを3階にある一室に案内した。

私の目の前に、一人の男性が古い毛布の中に頭を覆い隠して丸くくるまって横になっているのが目に入った・・・私はベッドの横に座り、病人に触れた。誰かが自分にぶつかったのを感じて病人は毛布を引きずり降ろした。目の前に現れた顔はがりがりに痩せこけ、ゆっくりと驚いたようすで私たちを見つめた・・・私は笑いながらあいさつし、手を置いて彼の額に触れた。高熱を感じた私はすぐに家の人に額を冷やすために水で濡らしたタオルを持ってくるように頼み、同時にお手伝い

さんには解熱剤を与えるように指示した。

30分ほどたって、男性が少し警戒している様子を見て、私は彼に「座れますか？」と尋ねた。彼は出来る、と頷いたが一人では座れなかった。私は彼の手を持ち上げてしっかりとつかんで彼を座らせなければならなかった。私たちは彼と健康について談笑したが、答えは弱々しくとても疲れているようだった。そこで、もう一度横になるようにすすめた。けだるそうに横になり、目を閉じた・・・私たちの今回の訪問はとりあえず十分だと感じた。帰る直前に、私は彼の頭を少し持ち上げてもう少し余分の薬を飲ませ、家の人に病人が飲食するときの体の起こし方を教え、親しい人に明朝、彼を Nhom Tieng Vong へ連れてくるように頼んだ。そこには、十分な薬品がそろっているから彼の健康を少しは取り戻すことができるのではないかと。

熱帯病院の記録では、彼は以前に1か月治療している。彼のCD4は $3/\mu\text{l}$ に過ぎず抵抗力が低すぎたので〈劣〉に分類されて死を待つ身になった・・・

次の日もまた続けて毎日、彼は兄に付き添われて Nhom Tieng Vong の診察室に来て周到な治療と世話をしてもらった。



(HIV/AIDS 無償診療所)

1 か月たって、15日間の懸命な Nhom Tieng Vong での世話を受けて彼の健康はだいぶ良くなった。飲食も通常に戻り、体重も7キロ増えた。そして、今日、彼の健康は落ち着いている。病気になって以来休んでいた仕事にも戻った・・・彼は嬉しそうに見え、家族も彼が死神の刃から逃れ出られたことをとても喜んでいて。

また、私たちは HIV/AIDS の末期患者にただ懸命に奉仕をしている。そして、全能の神が彼らを救ってくださる恵みを見ている。神がいつも彼らと共にいてくださることと、私たちの仕事に同伴してくださっていることを知って喜び、ただ感謝するのみである。

毎月第3の土曜日に、カミロ会の司祭によって HIV/AIDS で亡くなった人々のために祈り、また、治療を受け続けている人達のためにミ

サがある。ミサに一度も与ったことのない彼が、このミサに出て神様に感謝したいと言ってきた。私の心は喜びでいっぱいになった。なぜなら、これまではまだ一度も神を知らなかった彼がこの神を知りたいと思ったのだから。

そして、私はこの奉仕を通して自分を主にお捧げします。



(HIV/AIDS 患者の点滴)

2015 年 支援先訪問ツアーで出会った子供たち



恩人の皆様へ

グエン・ホン・トゥク Nguyen Hong Thuc
(原文ベトナム語を翻訳)

私はグループの他のメンバーと同様に家族が困っているのです。父は小さい頃から麻薬依存症の治療するため、家にはいません。母は多くの借金をして逃亡し、やっと最近になって小さな企業で働き始めました。現在家族の生活は主に老いた祖父の収入源に頼っています。祖母は健康が良くなく、時々病気になりますが、家族の生活のために、頑張って稼いでいます。祖父・祖母がそういう風に頑張っているところを見ると自分もアルバイトをしたいと思います。その時祖父・祖母は「まあ、今は勉強を頑張って、将来良い仕事をしてから爺さん・婆さんを世話しても遅くはないよ」と言いました。そう言われたので、勉強に集中し、良い成績を取っています。大変な生活ですが、祖父・祖母は疲れた姿を見せることなく、できるだけ孫に良い生活をさせてくれます。

そして「Nu cuoi」グループに参加したら、毎週休まず週末にバスでグループの活動に参加しています。その活動で小まめに世話をし、勉強を指導するスタッフもみわかりました。また、毎年テレビでしか見られない場所に見学しに行かせてもらえます。

グループ管理の Phuong さんは私にとって特別な存在です。他人のことをよく理解し、いつも必要なときは話を聞き、良いアドバイスをしてくれます。私が何好きか、将来何になりたいとか、聞いてくれます。そのお陰で自分は心理学が好きなことがわかりました。他人のことを理解し、人々の痛みを感じ、何を困っているかを共感したいです。心理学以外だと、文学も好きです。将来安定な生活ができれば、本を出版したいと思います。今私の「本」を読んでもくれるのはクラスメー

トしかないないので、より多くの人々に読ませたいです。実はその「本」は考えたストーリーをノートに纏め、友達の間で読み回しているものです。褒めたり、ミスを教えたりしてくれますので、語学的能力や言葉の扱い方もだんだん上手になります。

最後私とグループメンバーにいつもサポートしていただき、スタッフの皆様と恩人様たちに感謝を申し上げます。

いつもご健勝を祈っております。

将来自分の人生を、恩人様のように現在私の家族みたいな困っている人たちを助け続けたいと思っています。



(Phuong さんと安藤勇さん)



(補習授業を受ける子供たち)

ベトナムの象の話

小野 浩美

昨年、ジャパ・ベトナムの「ツアー講演会・報告会」に新村洋子さんをお招きし、「ベトナムの象」のお話をいただきました。新村さんは 2002 年にベトナム中部で写真を撮っていた時偶然象が通り過ぎるのを見て、それから象に魅せられ現在はベトナムのアジアゾウの保護活動をしています。2 年に 1 度ダックラック省で象祭りが開催される時に、象祭り見学ツアーを行っているとの話を聞き興味を持った私は、今年 3 月に行われた象祭り見学ツアーに参加しました。

ベトナムに象がいることを私が知ったのは、もう 10 年以上前にビンフック省にある少数民族子供寮のシスターから「親戚の人が象に踏みつぶされて亡くなった」という話を聞いてからです。さて象祭りでは、象のサッカー、レース、川渡りの競技が行われました。観光客や村人が大勢見学に来ていて、村の一大行事という感じです。初めて、象の背中に乗った若者が赤いマントを翻しながら象を操って走り回るのを目の前で見て、圧倒されました。

新村さんや、ヨックドン国立公園園長さん、保護センター副所長さんから聞いた話です。昔から象は森の中を群れで移動し、村人は数を決めて象狩りを行って野生象を捕まえ、調教して家象として飼いながら、農作業や開墾や運搬をさせたりあるいは売ったりして生計を支えてきました。長い間、森と象と人は調和を保ちながら、自然の中でともに暮らしてきました。ベトナム戦争による森林破壊と、その後戦争によって家や生活手段を失った人たちの入植によって開墾が進む中で、それまで保たれていた調和が破られて、人間と野生象が衝突する場面が作られました。

今ベトナムで象が生息しているのは中部の 4 つの省だけです。ダックラック省全体で家象の数は 53 頭で、観光の仕事で忙しくなったため長い

休みを必要とする妊娠の機会が失われて、数年後には家象は絶滅してしまうのではないかと危惧されています。現在野生象の捕獲は禁止されています。ベトナム政府は野生象と家象を保護する方針を持ち、森での野生象の移動状況を調査しようとしていますが、予算的に追いつかないようです。小動物をとって暮らす村人が森の中に罠を仕掛けるのを法律で禁止したり、村人が作るトウモロコシを食べにくる野生象を監視したり、人と野生象の衝突を避けるための対策もいろいろとっているとのことでした。

家で象を飼っている一軒の家族を訪問しました。飼われているのは、タヌンという 12 歳の象で、1 週間は観光客を乗せる仕事をさせ、1 週間は休ませるそうです。子供が象にバナナの幹を与え、象が鼻を使い上手に食べていました。お父さんの手に血がついていて新村さんが「怪我をしたのですか」と尋ねると「象祭りの表彰式で豚の血を手で象につける。森に象をつないで帰ってくるまでその手を洗ってはいけない決まりになっている」との答えでした。象は夜森で過ごすため、子供が象の背中に乗って森へ連れて行くのを見送り、とても和やかな気持ちになりました。こんな暮らしがこの村ですっと続いてほしい、祈るような気持ちで、私はこの家族を見つめました。



(象の背中で揺られて森を行く筆者)

2015 年 10 月 17 日～2016 年 5 月 14 日までの会費・寄付納入者のお名前です(敬称略)

青沼 西子	品川区
芦田 敦子	西宮市
飯田 幸子	足立区
イエズス会社会司牧センター	千代田区
匿名	江別市
石坂 清一郎	品川区
逸見 裕一	さいたま市
出原 久美子	所沢市
岩田 瑞枝	川崎市
江口 一郎	川崎市
大泉 廣	江戸川区
岡田 典子	杉並区
小野 浩美	三鷹市
柏村 忠志	土浦市
川越ベトナム人カトリック共同体	川越市
岸 秀雄	鎌倉市
Nguyen Thi Mai	横浜市
小池 美恵子	国分寺市
斎藤 彰	川越市
櫻井 實、優子	つくば市
佐竹 道子	茅野市
渋谷節子	足立区
嶋田 弘志	町田市
宿澤 恵子	板橋区
武市 英雄	相模原市

多勢 三枝子	練馬区
田野 実	川口市
玉木 邦江	練馬区
辻村 寛行	清瀬市
中嶋 俊之	江戸川区
中島 淑子	町田市
中野 孝文	川崎市
西山 正子	足立区
匿名	新宿区
橋本 直樹	横浜市
Ha Thi Liet Oanh	大和市
原 悌二郎、原 章子	世田谷区
平井 裕	新宿区
藤井 訓子	大竹市
藤沢ベトナム人カトリック共同体	藤沢市
マリアの御心会茂原共同体	茂原市
マリアの御心会信濃町共同体	新宿区
宮坂 淑子・英美	さいたま市
村上 道子	目黒区
森 絵理咲	杉並区
矢島 澄子	杉並区
箭島 多美子	広島市
山本 喜代子	練馬区
四谷ベトナム人カトリック共同体	千代田区
渡辺 典子	羽曳野市

お知らせ

チャリティーコンサート

ベトナム音楽合唱、器楽演奏、ラテン音楽演奏

(セシリア合唱団、サイゴン・ロータス、マルキチャイバンド)

2016 年 7 月 10 日 (日) 13:30～15:30 (開場 13:00)

場所: 四谷 岐部ホール 404 号室

JR/地下鉄丸ノ内線・南北線 四ツ谷駅下車徒歩 3 分

チケット: 1,500 円 (ケーキ、飲み物付)

お問合せ: ジャパ・ベトナム事務局へ

電話 03-5215-1844 Email: japavietnam2014@gmail.com

支援先訪問ツアー 2016

毎年実施している支援先訪問ツアーを今年も計画しております。

一般参加の方も若干名募集しておりますので、ご興味ある方はご参加ください。

2016 年 9 月 3 日～9 月 16 日 (14 日間: 部分参加も可)

お問合せ: ジャパ・ベトナム事務局へ 又は FB [japavietnam](https://www.facebook.com/japavietnam) をご参照ください。

電話 03-5215-1844 Email: japavietnam2014@gmail.com

◆◆◆会計報告◆◆◆

(2015年10月17日～2016年5月14日)

募金会計		活動費会計	
収入		収入	
一般会費	1,257,378	活動費寄付	34,500
賛助会費	0	バザー売上	0
助成金	0	ツアー残金	0
普通利息	0	雑収入	0
雑収入	0	小計	34,500
	0	支出	
小計	1,257,378	活動費	15,661
支出		印刷費	0
支援金	0	文具資料費	0
送金手数料	0	通信費	22,139
小計	0	小計	37,800
前期繰越金	29,716	前期繰越金	25,232
当期収支	1,257,378	当期収支	▲ 3,300
次期繰越金	1,287,094	次期繰越金	21,932

〈2016年の申請書が届いています〉

- ①エイズ家族の自立を図るグループ（バックニン省）：健康保険、奨学金
- ②フンチュン村診療所（ゲアン省）：歯科治療台
- ③少数民族子供寮（ビンフック省）：家建築と土地
- ④DV、麻薬、エイズ、聾啞者等自立支援（HCM）：少額融資、運営支援
- ⑤エイズ無償診療所（HCM）：薬、栄養剤
- ⑥エイズ家族子供たちの家（HCM）：教育・運営支援
- ⑦ダイハイ村（ソックチャン省）：橋の修理
- ⑧聖ヨセフ小学校（ハウザン省）：学校運営支援
- ⑨フータン（カマウ省）：家、障害者ケア
- ⑩コーチャン（キエンザン省）：奨学金、飲料水施設

総額約 260 万円。現在支援プロジェクトを検討中。

資金が不足しております。 ご支援をよろしくお願い致します。

JAPA VIETNAM をご支援ください

- 一般会費 年間1口（2000円）以上
- 賛助会費 金額・時期ともご自由に
- 活動費寄付 活動費の支援（金額自由）

どれになさるかはご自由にお選びください。
ご都合に応じてご送金いただければ幸いです。
会費をお振込みいただいた方には、振込の半券で領収書とさせていただきます。領収書が必要な方は、振込用紙の通信欄の「□領収書必要」の口にチェックを入れてください。
事務費削減にご協力いただけると幸いです。

【ご送金は郵便振替で】
00100 - 8 - 118761
JAPA VIETNAM

◆
【銀行をご利用の場合は】
三菱東京UFJ銀行 四谷三丁目支店
東京女子医大出張所（店番 315）
普通預金 3544236
JAPA VIETNAM 代表 安藤勇

会報名『チャオ・ベトナム』について

「チャオ」(chào) とはベトナム語で「こんにちは」という意味です。『チャオ・ベトナム』というタイトルには、ベトナムの人たちと友情のネットワークを築いていきたいという、私たちの願いがこめられています。

ベトナムの未来にあなたの力を

ジャパ・ベトナム (日本ベトナム民間支援グループ)

JAPA VIETNAM

(Japanese group of Private Assistance to VIETNAM)

〒102-0083 東京都千代田区麹町 6-5-1

岐部ホール 4 階

イエズス会社会司牧センター内

電話 03-5215-1844

FAX 03-5215-1845

e-mail:japavietnam2014@gmail.com

http://www.japa-vietnam.org/